

佐久市都市計画マスタープラン改定計画（素案）に係る公聴会の意見陳述要旨及び市の見解について

公聴会概要

開催日時 平成30年2月4日（日） 午後1時30分より
 開催場所 佐久市役所南棟3階 大会議室
 傍聴人 1名

意見陳述要旨と市の見解

意見陳述要旨	市の見解
<p>市町村合併後、佐久市も少子高齢化、人口減少は避けられず、今後も確実にこの傾向は続くことを前提に考えなければならない。</p> <p>市民の意見を反映させながらのまちづくりは当然ながら、今後、合併特例債の返還、交付税の減額も想定される。</p> <p>公共施設を現状のまま維持すると年間70億円かかるという試算の下、「公共施設マネージメント」のあり方が提案されている。先進自治体では既に「ハコモノは原則として新設しない」「長寿命化、複合化を基本に」子育て支援等を柱に優先順位を市民合意で決定し、実践し始めている。</p> <p>佐久市の大型開発、新設施設については、マネージメントの視点から見直すべきと考える。</p> <p>「ないものねだりではなく、あるもの探し」で、佐久市を分析し、貴重な地域資源（例えば旧中込学校等）の価値を再認識しながら、計画を立てていくべき。</p>	<p>第1章「佐久市の現況・課題」で整理したとおり、急速な人口減少は、地域経済の停滞など負の影響をもたらし、さらなる人口減少につながる恐れがあります。</p> <p>このため、人口減少を克服し、多くの人々に「選ばれるまち」を目指すためには、今後も快適で豊かな住環境を維持するとともに、地域資源に着目した特徴ある発展を目指す必要があると考えます。</p> <p>また、無秩序な市街地の拡散を抑制し、市街地密度を高める機能集約型のまちづくりを推進する必要があると考えています。</p> <p>社会や経済が縮小に向かう中であっても、まちが持続的に発展し続けるためには、一律に事業の抑制を図るのではなく、選択と集中のもと、佐久市の強みや特徴を伸ばす視点も不可欠と考えます。</p> <p>例えば、佐久平駅南地区や佐久臼田インターチェンジ周辺地域など、高速交通網の結節点としてのポテンシャル（潜在的な力）を有する地域に関しては、その強みを最大限生かせる土地利用や施設整備を推進する必要があると考えます。</p> <p>同時に、社会が成熟に向かう中においては、既成市街地のリノベーションや、既存ストックの活用等により、市民の生活の質の向上に繋がるような魅力的な都市空間を創出し、これを持続的に維持管理していくことも重要です。</p> <p>第3章「全体構想」においては、このような視点から、「佐久市公共施設等総合管理計画」に基づく施設保有量の最適化や適正配置、「プレイスメイキング」や「空き家バンク」をはじめとする民間活力による既存ストックの活用等について明記しております。</p> <p>市民が愛着と誇りを持って暮らし続けることができる地域社会を実現するためには、地域の個性や特徴を生かしたまちづくりを推進することが重要です。</p> <p>第3章「全体構想」においては、このような視点から、今回の全面改定に際し「地域資源活用の方針」という項目を新たに加え、特に旧中込学校に代表される重要文化財等については、地域の個性や付加価値を高める貴重な地域資源として保全・活用するとともに、歴史・文化資源を生かしたまちづくりを推進する旨を明記しております。</p>